

全国水土里ネット会長賞

1. 地区概要

参加団体名：石狩市（北海道）

表彰地区名：北海道 高岡地区

事業名等：緊急畑地帯総合整備（H9～H13）

主要工事：農業用用水（畑地かんがい）、暗渠排水、土層改良

2. 推薦理由

本地区は、水稲のほか、馬鈴薯、人参等土地利用型作物を主体に田・畑作経営を行っていたが、畑作地については無水地帯であったことから、干ばつにより発芽・生育不良が発生して減収することがあった。また、防除作業では取水・運搬作業が伴い、労力的に大きな負担となっていたため、経営面積や野菜類の作付面積の拡大は困難な状況であった。

そうした中、本事業による畑地かんがいの実施により土地利用型作物の生産性の安定のほか、新たに施設園芸の取組みが可能となり、ミニトマトやメロンの作付が増大し高収益をあげることができた。特にミニトマトにおいては「いしかり DE CHU!!」の名を待つ地域ブランドとして出荷されており、市場（札幌・石川・東京・愛知）やスーパー（市内・札幌）からも高い評価を受けている。

生産組合においては、「エコファーマー」及び「YES! clean」の認定を受けるなど、環境との調和に配慮したクリーン農業に取り組んでいる。

※YES! clean：北海道クリーン農業推進協議会が推進する、北のクリーン農産物表示制度

3. 受益地区における農家及び担い手の状況

（1）受益地区における農家数の状況

区 分	事業実施前	現 在
総農家数	57 戸（ -戸）	37 戸（ -戸）
うち専業農家数	32 戸（ -戸）	33 戸（ -戸）
うち兼業農家数	25 戸（ -戸）	4 戸（ -戸）
認定農業者	20 人	23 人
生産組織等(法人含む)	0 組織	2 組織

※（ ）内の戸数は、担い手農家数

(2) 農用地の流動化状況

項目	事業実施前	現在	目標
受益面積	197.6 ha	197.6 ha	
担い手等の利用集積面積	9.59 ha	30.5 ha	50 ha
①利用権設定面積	9.59 ha	30.5 ha	50 ha
②受託面積	0 ha	0 ha	ha

4. 農業経営状況

区分 作物名	事業実施前 (10 a 当たり)			現在 (10 a 当たり)		
	労働時間	反 収	生産費	労働時間	反 収	生産費
馬鈴しょ	8.1	3,028	37	7.2	4,690	32
カボチャ	68.7	1,700	117	68.4	2,859	105
だいこん	36.6	4,934	37	36.1	7,660	32
ミニトマト	-	-	-	1,080.0	5,000	1,000
メロン	-	-	-	305.5	3,432	208
ブロッコリー	-	-	-	69.0	3,000株	51

区分 作物名	作付面積の推移		
	事業実施前	現在	目標
だいこん	18.1 ha	2.0 ha	2.0 ha
にんじん	18.1 ha	5.0 ha	5.0 ha
白菜	18.1 ha	1.0 ha	1.0 ha
メロン	0 ha	5.0 ha	5.0 ha
馬鈴薯	45.2 ha	42.0 ha	42.0 ha
その他	98.1 ha	142.6 ha	142.6 ha
合計	197.6 ha	197.6 ha	197.6 ha
土地利用率	100.0 %	100.0 %	100.0 %

5. 営農推進の状況

(1) 栽培技術関係

従来の皿溜による非効率なかんがいから、畑かんの導入によりきめ細やかな水使いが可能となり、ミニトマト、メロンのほか、ブロッコリー等新規作物の導入につながり、これら新規作物の生産が安定したことにより、作物の価格が安定し、農業所得が向上した。

(2) 転作関係の状況

畑地かんがいによって施設園芸作物することができ、高品質な作物生産が可能となったことから、都市近郊型農業として札幌市場で高い評価を得ている。

(3) 農産物の加工、流通、販売などに向けた取り組みについて

平成10年より高岡施設生産組合でミニトマトの生産に取り組み、平成13年にこのミニトマトを「いしかり DE CHU!!」と産地名を含めた地域ブランドとした。その後、個別農家が取得する「エコファーマー」や生産団体に取得した「Yes! Clean」によりさらなる付加価値を高め、現在石狩市内の地場直売所や、札幌圏の量販店及び道外市場へ流通し、高い評価を得ている。

6. 環境に配慮した取り組み

地区のミニトマト生産者（8人）は平成14年に「エコファーマー」として認定され、また、本地域内の高岡施設園芸生産組合は平成15年にクリーン農業に取り組み「YES! clean」の承認を受けるなど、環境との調和に配慮した農業に取り組んでいる。

7. その他事業実施の効果による新たな取り組み

◆余剰労働力の活用方法について

施設園芸の導入による労働力問題を解決するため、石狩市JAいしかり、農業委員会で組織された石狩市総合農業支援センターの生産支援体制により、水稻作業の受委託システムとグリーンサポーター事業（ハローワークの許可を得て生産者に代わってパートタイマーを募集し、農作業の補助労働力とする雇用労働システム）の活用により、雇用労働力を確保し労働体系の改善が図られ、集約的な農業展開を可能している。

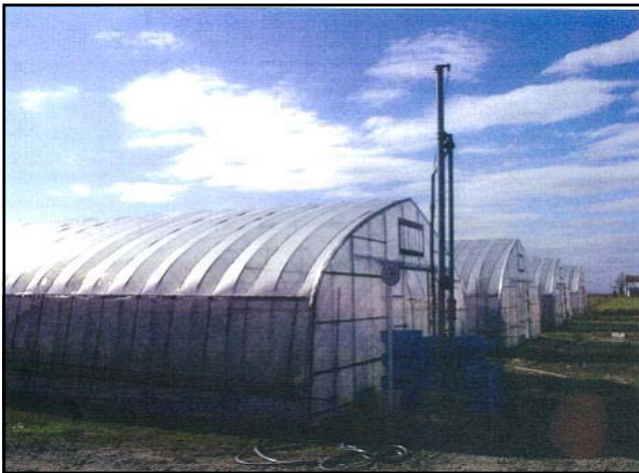
8. 行政や関係者が「事業計画、施工、利活用など」において苦労した点

石狩市農業振興計画の施策において、畑地かんがいは深い関わりを持ち、本地域を主体とした地域農業を支えるうえで重要な役割を果たしている。

9. 周辺地域への波及効果及び将来の展望について

本事業により、畑地かんがい施設や農道が整備されたことによりハウス栽培を含め、農業生産の選択の幅が広がり、新規作物の導入が図られている。

今後、更なる導入作物の拡大や後継者及び新規就農者の確保を図っていく。



ミニトマトのハウス



選果場



ミニトマト「いしかりDE CHU!!」